

令和8年度学校評価報告書（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	①SSH 事業を計画実施し、探究的な学習や 活動を通して様々な 課題を解決し、社会 に貢献しようとする 強い意志を持った生 徒を育てる。 ②国内外での多様な関わりの中で、情報活用能力、問題発見能力、論理的思考力等の資質・能力を向上させることにより視野の広い生徒を育てる。	①SSH 指定校の取組に積極的に関わる生徒を増やす。 ①生徒に身に付けさせたい資質・能力を意識し、測定する授業実践を行う。 ②左記の資質・能力を育成する学校行事計画を作成及び行事を運営し、生徒会活動を支援する。	①サイエンススタディなどの本校の取組や外部の発表会への参加を推進する。 ①すべての教科において探究的な学びを実践し、「共創探究力」及び「論理的思考力」または「情報活用能力」を測定する授業実践を行う。 ②行事や生徒会活動において、生徒主体となる組織的運営方式や行事前のオリエンテーションにより、左記資質・能力を向上させる支援を行い、教科外活動の充実を図る。	①サイエンススタディなどの本校の取組や外部の発表会への参加生徒のべ130名(令和7年度実績)以上。 ①資質・能力を測定するための課題設定及び評価を各教科で年2回以上実施。 ②アンケートで、「充実した教科外活動ができたか」に対して肯定的な回答90%以上。 ②各行事後の振り返りで、左記資質・能力が向上したと回答した生徒70%以上。
2	生徒指導・支援	①心身を健やかに保ち、自己理解及び他者理解ができる生徒を育てる。 ②部活動の活性化を通して責任感や連帯感の意識を涵養する。	①生徒の悩みや困難の早期把握・解決に向けて、外部機関等との連携を効果的に行い、支援の充実を図る。 ①自主自律の学校目標の下、社会的マナーや生活規律を確立させる指導を行う。 ②部活動等に対して生徒が責任を持って取組み、他者との協働意識を高く持てるように支援する。	①「かながわ子どもサポートドック」の取組みを、学年団と協力して推進し、SC・SSW との連携を強化し、組織的な支援を行う。 ①全校集会やHR 等において、自転車通学や公共交通機関乗車時マナーなどについて考えさせる指導を行い、地域社会の一員であることを自覚させる。 ②生徒会本部を中心に部長会の定期的な開催や各委員会との連携により学校運営に関する課題解決について生徒が相互に意見交換し考えることのできる場を設定する。	①困難を抱える生徒の早期発見ができたか。 ①学年団および SC・SSW と連携して効果的に支援し、必要に応じて外部へつなげることができたか。 ①事故や交通違反、登下校マナーについての件数が減少したか。 ②部長会を定期的に開催できたか。 ②各委員会との連携を密にとることができたか。 ②部長会や各委員会の連携により得られた情報をもとに、生徒が自ら課題を設定し、改善策を提案・実行したか。
3	進路指導・支援	①より高いレベルの進路実現に向け、持続 的に力を尽くすことのできる生徒を育てる。 ②何事にも果敢に挑戦する態度を育み、社会をけん引することのできる、未来を拓くリーダーを育てる。	①生徒の学習状況を細かに把握するとともに、必要な情報を適宜提供し、高い目標を持たせ、最後まで第一志望を諦めさせない進路指導を貫き、生徒の希望の実現を支援する。 ②学びを通して自己実現への意欲を高め、何事にも果敢に挑戦する態度を育む。	①生徒が進路の実現に向けて「振り返り」を行い「見直し」をもって学びを進めていくように支援する。 ①第一志望校または第一志望学部に進学できるように、データを示して前向きに取り組む助言等をきめ細かく行う。 ②学年集会や個人面談、授業等の様々な場面で根拠に基づいて目標を設定させ、やる気を引き出す指導を行う。	①進路通信や進路説明会（本校職員）、面談を定期的に行い迅速な情報提供ができたか。 ①適切な振り返りの機会として、進路講演会（外部）を定期的開催をできたか。 ①難関大学対策講座、夏期講習、冬期講習の受講率を向上できたか。 ②高い目標を諦めず、第一志望校または第一志望学部に進学した生徒が80%以上。
4	地域等との協働	①地域社会と積極的に関わり、社会と学校が連携し、安心安全な環境づくりに取り組む。	①地域との連携の重要性を学校全体で共有し、地域社会における学校のあり方について意識を高める。	①地域連携の意義や具体的な方法、先進事例について職員が学ぶ機会を設ける。 ①生徒向けアンケートを実施し、本校の教育活動について地域に知ってもらう方法を検討する。	①地域等の活動に参加した生徒数のべ50名以上。 ①広報的行事の内容を改良し、生徒の満足度を向上できたか。
5	学校管理 学校運営	①教育公務員としての高い倫理観を保持し、健全な職場環境を作り、事故不祥事防止に努める。 ②すべての教員が学校教育目標を共有し達成に向けて協働して取り組む学校文化を継承する。 ③学校運営協議会をいかした学校運営を推進し、地域とともにある学校づくりを推進する。	②企画会議と各組織・職員との双方向情報の共有化を深め、教育目標に向けた参画意識を高める。 ③ホームページや SNS 等で本校の特色、教育活動や成果等の魅力、地域との連携状況の広報活動をさらに充実させ、迅速で適切な情報提供のための体制を整備する。	②グループ会議や学年会等を通じ、企画会議と各職員間の情報共有を深めるとともに、意見の集約・反映を推進する。 ③教育活動等の情報発信を月10回以上実施。また、情報発信環境を整備する。	②職員間の情報共有と職員からの意見を反映することができたか。 ②業務量の削減及び平準化を実現できたか。 ③月10回以上情報発信を行うことができたか。担当職員以外にも情報発信に関わることができたか。